

令和6年4月定例記者会見要旨

開催日時 令和6年4月25日(木) 午前10時30分 302会議室

(総務部長) それではただいまより4月の定例記者会見を始めます。よろしくお願いいたします。

(市長) 皆さんこんにちは。

令和6年度の新年度がスタートして、1ヶ月近くが経過してまいりました。

桜の花も一段落して新緑へと季節は移行してまいりました。

当市の事業が数々スタートを切っているところです。先週は、湖周のサイクリングロード16km完成イベントには、各社の皆さん、たくさんの取材をいただきましてありがとうございました。本当に足かけ7、8年かけての事業でありましたが、ここで全線開通という大きな節目を迎えて、また気持ち良い好天に恵まれて、私も16km自転車に乗って、走ってまいりました。概ね皆さんからも好評です。

走ってみても、安心して通れますし、気持ちのいいロードができた大変喜んでいます。

これから連休に入るとい季節感がありますが、事業の本格化とともに行政のイベントも5月に入りますと様々ありますし、民間の皆さんのイベントも、佳境に入ってくるという季節を迎えました。記者クラブの皆様も4月からは、異動等でメンバーも新しくなられたと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、5月の月間の行事をおさらいしながら、事業等についてご説明させていただきたいと思います。

(5月の日程説明等)

- 第2回諏訪市二十歳のつどい 文化センター
5月4日(土) 午後2時
- 諏訪市航空写真パネルの寄贈式 市長室
5月9日(木) 午後1時30分
- 霧ヶ峰高原草原再生作業 霧ヶ峰
5月18日(土) 午前9時
- 諏訪市水防訓練 諏訪湖イベントひろば
5月19日(日) 午前8時30分
- 災害対策本部水防図上訓練 302会議室
5月23日(木) 午前10時
- 霧ヶ峰開山祭 霧ヶ峰
5月24日(金) 午前9時
- 第101回上水道記念式及び水道事業100周年記念式典 茶臼山配水池及びホテル紅や
5月25日(土) 午前9時30分
- 第55回高島城祭 高島公園
5月26日(日) 午前9時
- 諏訪市議会 本会議【招集日】 議場
5月29日(水) 午前10時

記者との質疑応答

○市文化センター大規模改修について

(記者) 4月1日から諏訪市の担当をさせていただいていますので今後ともよろしくお願ひします。先日、市文化センター大規模改修の説明会が行われましたけれども、その受けとめと今後のスケジュールについてお聞かせください。

(市長) 4月21日の土曜日、2回に分けて、午後の部と夜の部で、改修に関わる基本設計についての報告をさせていただきました。午後の部に於いては、かなり多くの皆さんご出席をいただきました。夜の部は10数名くらいだったのでしょうか。それでも、多くの皆さんが関心を寄せてくださっているということをありがたく思っております。皆さんから、3月の説明会の時に、多く希望が寄せられました緞帳の件と、それから、反響板、この件につきましては、継続して次の段階でも検討をしていきますということをご説明をさせていただきました。そして、骨格として、完了いたしました基本設計の予算規模を39億4千万円、これも発表させていただきました。市民の皆さんの中には、防災の拠点としての整備について、これは非常に好意的に受けとめられているというふうに感じました。それから、保存をしながら活用していくということが非常に大事ですけれども、集会室を増やしたり、それから授乳室だとか、子供のトイレ、多目的トイレなどを増やしたり、というような改造についても、概ねご理解をいただけたという印象を持ちました。

課題といたしまして心配をされている皆さんのポイントは、先ほど継続して検討していく、2点、プラス予算のことであったと思います。これについては、今後も引き続き、心配や懸念がおりというふうに受けとめましたので、ご理解をいただけるように、丁寧に説明をしながら、事業を進めていきたいと思っております。

(記者) 実施設計の予算の提出は、6月定例会でありそうか。

(市長) 今、教育委員会で、この説明会をまとめております。その段階ですので、また定まったときには、いつどのように、次の実施設計に入るかについてを、アナウンスさせていただきたいと思いますが、本日はまだ発表できる段階ではございません。

○チョイソコかりんちゃんについて

(記者) 先ほどのチョイソコかりんちゃんという愛称ですけれども、これは公募されたということで、よろしいですか。募集期間と応募点数がわかれば、あと、チョイソコかりんちゃんという名称に決まったその選考した理由をよろしくお願ひします。

(市長) 広く公募をさせていただきましたところ109の応募がございました。期間等につきましては、後ろに担当がおりますのでフォローしてもらいますので、この後お願ひいたします。中には、チョイソコ諏訪とか、ゆる一と諏訪といったような候補もありました。

そのシステムは、チョイソコという名前で、全国に広く、幾つもの場所で使われております。そのことを尊重してわかりやすくということと、諏訪市のコミュニティバスが今までかりんちゃんバスということで、皆さんにご愛顧をいただいておりますので、慣れ親しんでいただいているという、その公共のバスの代替手段、新しい手段としての、交通形式、わかりやすいという意味で、チョイソコかりんちゃんということになったという経過であります。課長、後フォローをお願いします。

(地域戦略・男女共同参画課長) チョイソコというシステムに決まりましたのが、2月21日のプロポーザル方式の入札で決まりまして、その後、ネーミングの公募ということですが、市民全般に、公募する期間がちょっと短いということもありまして、庁内でネーミングの募集をさせていただいたと、そういう方法になってございます。その後、候補を絞りまして、3月

中に案をまとめまして最終的には市長協議をして決まったと、そういう流れでございます。

(記者)諏訪市役所の庁内で募集したということか。

(地域戦略・男女共同参画課長)はい。3月の10日から19日という期間でありますけども、急遽募集させていただいたというところでございます。

(市長)市役所職員全員に対して、アイデアを募ったということです。よろしくお願いします。

(記者)デザインについては、広報とか募ったりはされたのですか。

(地域戦略・男女共同参画課長)デザインにつきましても公募という方法ではなく、運営事業者にかりんちゃんを利用したデザインを作成していただきました。

(記者)おはようございます。続けてお願いしたいのですが、今日デザイン案も発表したということよろしいですか。

(市長)はい。最終案のところ、相談がありまして、グリーンブルー系かイエローを含めたものかというところの決定は私がさせていただきました。それが最終案です。

(記者)デザインの最終案はネーミングともに発表したということよろしいですか。それでこれは実際に使う10人乗りの車両ということよろしいですか。

(地域戦略・男女共同参画課長)はい。10人乗りになります。3台用意する予定でございます。

(記者)それでは今日は3号、3番っていうのは1から3ということですね。

(地域戦略・男女共同参画課長)はい。1というデザインの車両と2というデザインの車両がそれぞれあります。

(記者)この説明会が5月8日から始まりますけれども、これは事業者の長野トヨタさんとかも参加するというのでいいですね。

(地域戦略・男女共同参画課長)はい。すべて参加いたします。

(記者)このチョイソコっていうのは、システムのことですか。運行システムのことなのかチョイソコというのは。

(市長)そうですね。課長からフォローしていただけますか。

(地域戦略・男女共同参画課長)はい。このオンデマンド交通のシステムの愛称が、チョイソコでございます。「チョイとソコまで一緒に」と。それを略してチョイソコというネーミングでございます。

(市長)全国でも他にもたくさん使用されている例があるというものです。

(地域戦略・男女共同参画課長)そうですね。全国的にはチョイソコ、チョイソコ〇〇という愛称で、走っている交通が多いです。県内にも、中川村だとか、松川町あと佐久市を走っていますけれども、チョイソコ何とかがってそういう内容になっております。

(記者)先行導入している町の人が、あるいは原村の交通ですね、それは別のシステムなわけですが、そのシステムを取り入れたりという検討はなさったのでしょうか。

(市長)検討はしました。アプライもございまして、全部で5社、エントリーがございまして、その中から、コンペティション(プロポーザル方式)で選考しています。

(副市長)詳細は担当課の方へご取材いただければと思いますけれども、私を委員長とする選考委員会、民間の方にもお入りいただいた選考委員会を開催いたしました。応募いただいた事業者の中には、茅野市、原村のシステムの会社もありましたけれども、諏訪市がこれから目指すA Iオンデマンド交通の事業者として、どこが適切かという審査をした結果、そちらの、茅野市、原村のシステムとは違う、長野トヨタ様のシステムを選考したという結果でございます。

(記者)それは諏訪市として、その目指す交通として、どの部分がこのチョイソコにメリットがあるというふうに判断されたのか、それを教えていただけますか。

(副市長)まず諏訪市は、定時定路線のバスを一部残しつつ、このA Iオンデマンドを導入するという基本的な方針があるということ、また、このA Iオンデマンドのバス停については、茅

野市、原村で導入しているような仮想バス停ではなく、既存の、かりんちゃんバスのバス停、ここを利用したA Iオンデマンドバスを導入しようというところ、そのあたりが、今回の業者選定に至った一つの大きな理由であります。

(記者)仮想バス停はなくて既存バス停のみ限定ってことですね、そうすると仮想バス停の方もやっぱり、料金的には高くなってしまいうことはあったのですか。既存バス停の方が、値段的にはこう安かったというのはあったのですか。

(市長)諏訪市の考え方としましては、やはり公共交通を担っていただいている事業者の皆さんの都合もあります。茅野市、原村は、広大なエリアでサービスを提供しなくてはならないということもありますけれども、諏訪市は、霧ヶ峰と後山というのは、デマンド交通がすでに入っております。ですから今回対象から外れておまして、割合コンパクトな都市部の中を移動する手段でありますこと、もし、仮想バス停で、ドアトゥードアで、バスが低廉な価格で動くことになりますと、タクシーとのすみ分け、これが非常に厳しい状況を生み出すということ等、様々な検討をした中で、利用者の想定は公共バスを利用する人ということですので、元気な、自分でバス停まで行って行動ができる皆さん、これは子供であっても高齢者であっても、そういった方々の利用を想定しています。福祉的な利用の皆さんについては、別の福祉タクシーなどの利用提供もありますので、公共交通のバスの代替手段としてどのようなシステムを入れていくかという、こうした検討の中で進められてきたということです。

○ゴールデンウィークの観光について

(記者)ちょっと今のバスと違う話題になってしまうのですが、観光面で、ガイドもできたりして先ほど市長も、インバウンドが戻ってきているなんていうふうにもおっしゃっていただいたのですが、ちょうどこれから大型連休も迎えるところなので、市内の観光等で期待することとか、こうなって欲しいなっていうような思いは、いかがでしょうか。

(市長)諏訪市は先ほど申し上げましたように、観光ランドデザイン、これを作成いたしました。今まで伝統的に諏訪市は、力技でイベントを通して、一気に人を招くという、これは大得意です。この力を残しつつ、年間を通じてコンスタントに、観光客の皆さんに来ていただける都市を目指すということで、観光ランドデザインを作りました。これからの社会を見据えながらどのような観光になっていくかということでシフトしていくと同時に、もう一度観光素材として持っている我々の素材一つ一つを洗い出して、これを育て上げていきたいと思いますというように意味も込められています。そうした中で磨けば輝くこんな諏訪にしたいというようなことで、霧ヶ峰もそうですし諏訪湖も新しいカヤックですとか、自転車道ができたりですとか、アクティビティー的な素材ですね、これも充実をしておりますし、それからウォークブルなまちということ、これは駅の未来ビジョンにも設定をいたしまして、駅周辺から周遊的に歩いて楽しいまちという観点では、最近、いろんな小さなショップがオープンになりましたし、リフォームをされた、魅力のある居酒屋さんとか喫茶店とか、いろんなものがポツポツ出始めてまいりました。そうした町の魅力発見的な街歩きガイドとしても、こうしたツールを使って歩いていただきたいと思えます。もちろん、諏訪市が誇る伝統的な諏訪大社ですとか、高島城ですとか酒蔵ですとか、諏訪湖、霧ヶ峰、たくさん素材がございます。これは発信をしていきますと同時に文化的な価値、文化芸術、これも美術館や博物館や、イベント等も、行われてまいりますので、並木deコンサートもスタートいたしますし、そうした文化の香る、魅力溢れるまちに向かって進んでおります。これは関係者と共有をしております。

それからもう一つ課題は、おいしいまちの方ですけれども、これも、飲食店の皆さん、みそ天丼ですとか、鰻やおそばに加えてのお昼メニューみたいなことを考えていただいて、頑張っております。ということで、いろいろな素材が溢れているのですが、それがフルに生かされてい

るところまで、もうちょっと頑張っていかなきゃいけません。でも、新たな発見は誰でもしていただけますので、どうぞたくさんの方々にお願いしたいと思っています。お待ちしております。

○小中一体施設型の学校、情報収集について

(記者)今年度に入って茅野市の方で、永明小学校と永明中学校が、諏訪地域で初めての小中一体型校舎として始まっておりますけれども、諏訪市の方でもそういった南部地区の方で小中一体施設型の学校を目指すということで、何か茅野市の方から、参考になるものなどありましたら教えていただいてもよろしいですか。

(市長)南部地区につきましてはすでに準備の委員会が発足しております、会議を重ねております。茅野市は、施設一体型永明小中学校も完成をいたしましたので、教育長が近々視察に伺うというふうに聞いております。私も機会を見つけて、ぜひ、見せていただきたいと思います。近くでのオープンですし、参考にしていきたいと思っております。当市の教育委員会はすでに、県内外の先行の、そうした情報については収集をしております、それも参考にしながら進めている最中ではありますが、お隣ですので、ぜひ参考にしたいと思っております。

(記者)ご感想、お待ちしておりますのでよろしくお願いいたします。

○人口減に対しての諏訪市の戦略について

(記者)昨日、人口戦略会議が、消滅可能性自治体の発表をしまして、諏訪市は消滅可能性自治体には該当はしていないものの、20歳から39歳の女性の人口変化率について、3割ほど減少するというふうに推定が出ています。こうした人口減に対して、諏訪市として、どのような戦略を考えていらっしゃるか、基本的な方針をお聞かせいただければありがたいです。

(市長)子供の数が減ってこないということ、これは少子化対策という枠でくくられると思いません。それから、もう一つ子育て支援という施策がございます。これはすでに生まれている子供と、それを育てている家族の皆さんが、いかに子育てしやすいかという、そうした支援策になると思います。我々自治体としては、いろいろな子育て支援策は国や県と連携をしながら、医療費であったりとか、出産の補助であったりを、組み立てているところであります。この人口減少の問題というのは少子化の課題。これは子育てのサービスが充実していれば、子供を産んで育てようという人が増えるのかということとはちょっと趣旨が違うと思います。今育てておられる皆さんやこれから子供を産もうとされている方たちはそういうサービスがあればありがたいということで、それを言うので、それを充実するというのは、私たちの役割として充実させていく過程でありますけれども、私の個人的な見解は、これからの人生の設計について、結婚をして家庭を持って子供を育てていこうという設計をするときに、今の多くの若者の年収というのは非常に厳しい状況にあります。

そうすると、例えば5年後に子供を産んで家を建ててという、マイホームのイメージが、設計できづらいと結婚もしづらくて子供も産みづらいと。そこをどういうふうにしてまた各自治体でシステムや仕組みをもう一度考え直す時期に来ているのではないかと考えております。これは、国も県も我々自治体も一緒になって、考えていくべきお話だと思いますし、ここで、失われた20年30年と言われたデフレからの脱却を図っています。ここで春闘も、賃上げに議論が入ってきました。同時に経費も上がってくるものですから、実質の経済的なゆとり感というのは、厳しさがまだ続くということが予想されますけれども、若者が自分で人生を切り開いて、そして収入も増えていく、そうした夢を描ける、そういう状況が、チャンスが、数多くあるというそういう社会にしていくことは大事だなと思っております、これは一自治体

ではなくて、そうした枠を超えてみんなで考えていく課題だろうと思っておりますが、これについてもメッセージは、しかるべきところには発信していきたいと思っております。

(記者)保育所の対話集会についてですが、合意形成が課題であるといった意見ですとか、今年度も、入園者数が非常に少ない園は来年度以降の運営っていうのが心配になるといったような意見が出ていますけれども、市長として受けとめと、プランの進め方についてどのようにお考えでしょうか。

(市長)この“ひろがる笑顔”ゆめ保育所プランは、コロナ前に策定をいたしまして、ゆめスクールプランと同じぐらいのペースで推し進めたいという課題でありましたが、学校とまた違わしまして、保護者の皆さんや保育士が、コロナの感染に対して非常にデリケートな環境にありました。集会を開くこと自体遠慮せざるをえない状況を強く要望されましたので、こうした話し合いの機会を、後送りにしてきたという状況です。それで昨年度、コロナが、5月に5類になり、昨年度の後半から対話集会を行っています。その間何もしなかったというわけではなくて、この“ひろがる笑顔”ゆめ保育所プランを進めますということで、例えば、基本的な考え方として小学校区、二ヶ所ぐらいが妥当ではないかとか、そうしたメッセージを発信するために、保育園等を通じて保護者の皆さんには、この動きを、保育士の皆さん、保育園のスタッフの皆さんには我々行政を通じて、もうすでに何年もかかって、お伝えをし浸透してきている課題になっています。今通園されている保護者の皆さんから、直接顔を合わせながらお話をいただく、会話ができる機会として説明会を設けておりますが、保育園の方も、コドモンですとか、いろんなDXのツールを通じて、皆さんから意見をいただく機会がございます。これらも同時に利用しながら意見をもらっていくという考えもございます。対話集会に何人集まったかということではなくて、今、保育園に通わせ、お子さんが通っていたり通わせている方達が、どんなイメージがあったり課題を持っていたりっていうことを広く集約し、また吸収させていただきたいと思っております。おそらく、新たに生まれ変わった保育園に子供を通わせるときには、今通園している子供たちも小学生中学生になっているということも想定されますので、今現在、その集会に何人来ましたっていうことだけがバロメーターではないと思っております。皆さんの現状や課題や思いを聞かせていただく、一つのチャンネルとして集会があるというふうに私はとらえております。ですから担当課には、そうしたDX等も使いながら、とにかく広く参考意見を聞かせていただくということが目的です、ということは共有しております。

(記者)老朽化が進んでいる園舎の保護者の方が、今日明日にでも災害が起きた場合、子供たちはどうなるのかというような、そういった意見もありますが、進め方を園によって早めるとか、遅めるといった考えはありますか。

(市長)どこから着手していくかということにおいては、やはり状況を比較検討する中で優先順位が生まれてくるという心積もりであります。災害の時の対応につきましては、応急処置としてやらなければならない対応は、当然やらなければいけないので、それはリクエスト等、担当課で受けとめて、必要な対応は早急にとっていかなくてはならないと思っております。

(記者)先ほどの人口減に対してどのように立ち向かうかっていうところですけども、私も4月前は下諏訪町の担当をしていて、移住者を呼び込むみたいなことに力を入れていました。諏訪市においては、先ほどのお話だと、人生設計をしやすいようにして、自然増を目指していくというような考え方ででしょうか。

(市長)はい。それは市単独でできる課題ではなく、国も巻き込んだ全体課題になると思っております。それは同時並行で発信していきますし、子育て支援も子育てしやすいまちというものを重要視される方もいらっしゃると思っておりますので、それは充実していく予定です。日本全国で見ると、社会増減っていうのは自治体同士の人の取り合いであって、日本全国の人口増に繋がっているかというところというわけでもないわけです。だからやはりバランスのとれた人口規模がど

のくらいかというのは一つ議論があると思います。日本も江戸時代は7千万人くらいだった。疫病が流行ったり戦争があったりすると、急激に人口が減るという局面は、長い歴史の中では何度も経験しています。

そして今回は、20世紀の中盤に戦後、急速に団塊の世代と言われる爆発的な人口増があって、団塊ジュニアという塊もあって、それが、今、理由はともかくとして、子供の少ない社会にシフトして、人口の減少時代というのを迎えているということで、日本の国内において、今まであった産業をそのまま同じように維持するには、人口は足りていない。

しかし、新しい時代にどのような人口バランスが良いのかということの一つの課題でもあります。どこでバランスを取っていくのかということ、それを考えると、私とすれば、一人一人の幸せ度、人口が多い少ないという指標が絶対ではなく、いろんな世代それぞれ指標があると思っています。子供もお年寄りも、それぞれの人たちが生きていて、幸せ感が感じられる社会の構築というのが、まず一つの目標にもなるだろうと。その中でそうした社会を維持するために、どのくらいの人たちがどんなふうに関割を分担して、どのような活動をしたら快適なのかということが、議論されることが必要だと思っています。

そういう中であって、諏訪市としても、今まで培ってきたこの街の価値というのを維持発展させるために、急激な減少の一途では困ります。そういう意味で、行うべき施策を重ねていくという、そういう見通しであります。ですからこの小さな6市町村というのは、経済圏も一緒に、通勤圏も通学圏も共有している、そうしたふるさとです。隣から、何人移住してきて何人外へ出ていったってというような、それも一つのバロメーターではありますけれども、住みやすい、皆さんが当市に移り住めて嬉しいというようなそういう社会を作っていくという目標を定めて、各施策を進めていくということが大事だと思っている次第です。

(総務部長) それでは以上をもちまして4月の定例記者会見を終了します。どうもありがとうございました。